

釜小だより

瑞浪市立釜戸小学校 学校だより NO10
令和5年 12月26日(火)
校長 山田 隆二

2学期の間、大変ありがとうございました。

長かった2学期が終わります。ケガをしたり、コロナやインフルエンザに罹患したりした児童はいたものの、基本的に健康で過ごすことができたことはとても良かったことだと思います。多くの児童が元気に通ってきてくれました。また、朝から運動場で遊んでいる子や、廊下ですれちがう子は元気に、笑顔で挨拶をしてくれます。私たち職員も元気になります。

それも家庭でお子様の体調管理、栄養管理など、本当によく見ていてくださった賜物です。子供たちは、寒くても薄着で走り回る姿や、わからなくてもあきらめずに授業に参加する姿、友だちと楽しそうに話す姿など、多くの素晴らしい姿を見せてくれました。

また、職員も基本的には子供たちの教育的ニーズに寄り添い、個に応じた支援をしてきたつもりです。時には「成長を願って」叱られる場面もあったとは思いますが、それも頭ごなしの叱り方ではなく、「伝えることを最重要」ととらえ、発達段階に応じて話をしてきたと思います。

今後の「私たちの課題」は、子供たちが「お父さん、お母さん、先生たち(周りの大人)は、自分のことをほめてくれる」と実感させることだと思います。あるニュース番組で「お子さんを褒めていますか?」という問いに対して、「叱るほうが多い」と答えている方がたくさんいました。私も子育てをしていたときはその一人でした。そのテレビ番組では、1分30秒で思いつく「褒め言葉」を書き出していました。(取り組んでみてはどうでしょう)

【普段よく使う誉め言葉】

・ありがとうね ・うれしかったよ ・たすかったよ ・がんばったね
・すごい ・できるようになったね・・・

これらはとてもうれしい言葉ですが、高学年になって毎回それでは、褒めてもらった子供たちも喜ばなくなるそうです。そこで番組では「オットセイ理論」というものを紹介していました。普段当たり前のことをしている姿に「おお」を付けるのです。「おおっと SAY(言う、言え)」=「オットセイ」という意味です。(面白いネーミングですね)それだけで、子供たちは自分のことを見ている。自分のことを認めてくれているという感覚になるそうです。

「起きてきたね」→「おお、起きてきたね」「着替えているね」→「おお、着替えているね」

「お風呂を洗ってくれたんだね」→「おお、お風呂を洗ってくれたんだね」

また、朝日新聞デジタルでは、(監督、コーチ、応援の家族が)怒らない野球の試合というのが紹介されていました。岐阜市で行われているものです。大会名は「絶対怒ってはいけない学童野球大会(正式名:聖徳学園杯学童野球大会)」です。大人が怒らないのはもちろん、良いプレーには敵味方関係なくみんなで讃えるというのがルールの大会です。指導者もはじめは戸惑いもあったそうですが、選手が大喜びしている姿を見るにつれて「それがいいんだ」「それが今の子供には合っている」という意識に変わったそうです。子供たちも「めっちゃ楽しい!」とロタに言っていました。

私たち大人は、子供ファーストで考えや行動を変えていく必要があります。時代は確実に変わっています。家庭でも学校でも、地域でも、子供たちのよさを褒めて伸ばす、そこから(自らを律するために)考える力を導き出すようにしていきたいと考えます。(参考:ドデスクプラス 朝日新聞デジタル)

◎子供たちがタブレットを持ち帰ります。学校の様子を紹介したHPの記事が130を超えました。お子さんと一緒に見てください。

